

2026年第1回中山競馬特別レース名解説

<第1日>

○招福ステークス

招福（しょうふく）は、福を招くこと。新年には、招福を祈願して多くの人が寺社に参拝する。

○ジュニアカップ（L）

ジュニア（Junior）は、「年少者」「息子」を意味する英語。

○日刊スポーツ賞中山金杯（GⅢ）

本競走は、1952年に『金杯』の名称で創設された重賞競走。当初は芝2600mのハンデキャップ戦で実施されていたが、1954年に別定重量戦に変更され、1961年より2000mのハンデキャップ戦として、実施されている。1996年からは東西で行われる金杯を区別するため、名称が『中山金杯』となった。『京都金杯』と並んで、新年の競馬を飾る名物競走として定着している。

日刊スポーツ新聞社は、東京など全国に5ヶ所の本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○中山新春ジャンプステークス

新春（しんしゅん）は、新年や正月を指す言葉。新年を表す季語として用いられる。

○初茜賞

初茜（はつあかね）は、初日の出の直前に東の空が黄赤色に染まった様子のこと。新年を表す季語として用いられる。

○初日の出賞

初日の出は、元日の日の出のこと。日本では、一年の無事を祈願し初日の出を見る習慣がある。

○サンライズステークス

サンライズ（Sunrise）は、「日の出」を意味する英語。

＜第3日＞

○黒竹賞

黒竹（くろちく）は、イネ科マダケ属の一種。黒の稈（かん）はタケ類の中でも珍しい。稈の色は生え始めの頃は緑色であるが、秋頃からメラニン色素が増えて黒色に変わる。中型で日本各地に分布するが、主な生息地は高知県と和歌山県。淡竹（はちく）の一種であり、同種内の変異から生まれたと考えられている。建築物や家具の装飾材、庭園などに使われる。

○初風賞

初風（はつなぎ）は、元日の風のこと。風がやみ、波がなくなり、海面が静まることを風という。新年を表す季語。

○迎春ステークス

迎春（げいしゅん）は、新年を迎えること。賀詞として年賀状などに用いられる。

＜第4日＞

○初咲賞

初咲（はつさき）は、季節の最初に他の花に先駆けて咲くこと。また、年が変わって初めて花が咲くこと。

○ポルックスステークス

ポルックス（Pollux）は、ふたご座のベータ星。ふたご座の恒星の中では最も明るい。カペラ・アルデバラン・リゲル・シリウス・プロキオンと共に「冬のダイヤモンド」を構成する。名は、ギリシア神話で兄カストルと共にゼウスとレダの間に生まれた双子の弟の名前「ポリュデウケース」に由来する。

○フェアリーステークス（GⅢ）

本競走は、1984年に『テレビ東京賞3歳牝馬ステークス』として創設された重賞競走。当初は芝1600mで実施されていたが、1991年に距離が1200mに短縮され、1994年から現在の名称となった。その後、2008年の『阪神ジュベナイルフィリーズ』の実施時期移設に伴い、2009年より実施時期を12月から1月へと変更し、距離を再び1600mに戻して実施されている。フェアリー（Fairy）は、「妖精」を意味する英語。

<第5日>

○成田特別

成田（なりた）は、千葉県北部の市。中世以来、成田不動で有名な成田山新勝寺の門前町として栄えた。東部の三里塚には、戦前のサラブレッド生産に大きな役割を果たした宮内庁下総御料牧場があった。現在は、世界100都市以上とのアクセスがある成田国際空港を有し、国際都市として発展している。

○初春ステークス

初春（はつはる）は、春の始め、新春のことを指す言葉。旧暦の1月のことを「初春月」ともいう。新年を表す季語として用いられる。

○ニューイヤーステークス（L）

ニューイヤー（New Year）は、「新年」を意味する英語。

<第6日>

○菜の花賞

菜の花（なのはな）は、アブラナの花のこと。アブラナは、アブラナ科の越年草。千葉県の県花。ナタネ（菜種）とも呼ばれ、油料作物や野菜などとして広く栽培されている。花言葉は「競争」「快活」。

○アレキサンドライトステークス

アレキサンドライト（Alexandrite）は、宝石の一種。太陽の下では草緑色、人工光の下では赤紫色に輝く高価な宝石として知られている。名は、この石がロシア皇帝アレクサンデル2世の誕生日に発見されたことに由来する。

○カーバンクルステークス

カーバンクル（Carbuncle）は、1月の誕生石であるガーネットを丸く磨いたもの。元々ラテン語で「燃える石炭」または「小さな石炭」の意味で、転じてルビーなどの赤い宝石の総称としても使われる。この宝石を持つと、富と幸運がもたらされるといわれている。

<第7日>

○若潮ステークス

若潮（わかしお）は、長潮の翌日から潮の干満の差が大きくなる状態のこと。また、九州地方では元旦に海から汲んできて神に供える潮水のことを指す。

○ジャニュアリーステークス

ジャニュアリー（January）は、「1月」を意味する英語。前後に顔を持つ門番の神で、あらゆる物事の始まりと終わりを司るとされたローマ神話の神ヤヌス（Janus）にちなんで、1年の最初にあたる月を「January」としたといわれている。

○京成杯（GⅢ）

本競走は、1961年に創設された重賞競走。創設から長きにわたり芝1600mで実施されていたが、1999年に距離が2000mに延伸されたことにより、クラシックに向けて各馬の将来性や距離適性を試す上で更に重要な競走となった。

京成電鉄株式会社は、千葉県市川市に本社を置く鉄道会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第8日>

○東雲賞

東雲（しのめ）は、早朝に東の空がわずかに明るくなる頃のこと。夜明けを表す言葉としては他に「暁（あかつき）」「曙（あけぼの）」などがあるが、厳密にはその時間帯によって使い分けられる。東雲は、夜の終わりを指す「暁」と、太陽が昇る頃を指す「曙」の間。元旦の暁天は特に「初東雲」といわれる。

○初霞賞

初霞（はつがすみ）は、初春の頃に立つ霞のこと。新年を表す季語。

○初富士ステークス

初富士（はつふじ）は、元日の朝に初めて見る富士山のこと。旧来より初富士は縁起の良いものと考えられている。新年を表す季語として用いられる。

<第9日>

○若竹賞

若竹（わかたけ）は、その年に生え出た竹のこと。今年竹、新竹ともいう。俳句の季語としても用いられ、与謝蕪村の「若竹や夕日の嵯峨と成にけり」などが有名。

○江戸川ステークス

江戸川（えどがわ）は、茨城県猿島郡五霞町と千葉県野田市の付近で利根川から分かれ、東京湾に注ぐ川。川沿いには松戸・行徳・浦安などの都市があり、関東平野の農業用水源かつ排水路としての役割を担う。上流と中流は埼玉県と千葉県の、下流は千葉県と東京都の境界線になっている。また、東京都の区名のひとつ。

○アメリカジョッキークラブカップ（GⅡ）

本競走は、日米の親善と友好を目的として、ニューヨークのジョッキークラブから優勝杯の贈呈を受け、1960年に創設された重賞競走。芝2000mのハンデキャップ戦として創設されたが、翌年に2600mの別定重量戦に変更された。その後、幾度かの距離の変更を経て、1984年に現行の2200mに短縮され（同年は降雪のためダート1800mに変更）、実施されている。